

令和3年度 山内図書館の目標

今年度、山内図書館は、以下の目標について特に重点的に取り組みます。

この目標は「横浜市立図書館運営実行プラン」、各区の「読書活動推進目標」に基づいて策定しています。

1 誰もが利用しやすい図書館

【図書館のイメージアップと利用促進のための企画・イベント等実施】

〔取組〕

- (1) 年2回利用者フォーラムを開催し、図書館への要望や新事業へのアイデア等を出席者から募り、企画実現へつなげます。
- (2) 大人が帰宅途中に立ち寄れるイベント「あざみ野ブックカフェ」を継続して開催します。平日夜間開館のPRをするとともに、毎回バラエティに富むテーマを設定して、図書館の利用促進を図ります。
- (3) コロナ禍での生涯学習や情報収集・情報交換に役立つZoom等のツールの利用法を学ぶ講習会や、遠隔でも参加できる講座を夏以降に1回以上開催します。また、ひとりの時間を楽しく過ごすことを目的とした文章の創作講座を11月に開催します。

【誰もが利用しやすい図書館サービスの充実】

〔取組〕

- (1) 円滑な図書取次サービスを行うため、青葉区内図書取次施設と連携し、サービスの運用に努めます。併せて、青葉区内3駅に設置している返却ポストの経年劣化等による不具合や満杯の早期発見に努め、安定したサービスを提供できるようにします。
- (2) コロナ禍で外出を控えているシニア世代や、来館が難しい子育て世代に読書の楽しさを提供するため、宅配サービスを継続して実施します。

【人材育成の推進】

〔取組〕

- (1) 山内図書館で独自に接遇やコンプライアンス、人権、情報セキュリティに関する研修を行います。
- (2) 中央図書館をはじめ、県立図書館、神奈川県図書館協会の研修など外部研修に職員を参加させます。オンライン研修も積極的に活用し、職員個々のスキルアップを図ります。

【地域と連携した読書活動の推進】

〔取組〕

- (1) 区役所との「読書活動推進事務局会議」を毎月開催し、青葉区における読書活動推進について話し合うとともに、講演会、パネル展示等の連携事業を実施します。
- (2) ボランティアと協力して乳幼児から大人までが楽しめる定例おはなし会を第2、第

4の水曜および金曜日に開催し、ボランティアのスキルアップの場と、参加者が読書やおはなしに親しむ機会を提供します。また、青葉区内の施設や区内で活動する多様な団体との連携をはかり、社会のさまざまな分野と読書をつなぐ事業を実施します。

2 子どもの読書習慣の定着への支援

【子どもの読書習慣の定着への支援】

〔取組〕

- (1) 子どもが読書に親しみ、読書習慣を身につける機会を提供するおはなし会をボランティアと協力して開催します。毎月行っている定例おはなし会以外に、夏のおはなし祭りは、感染症予防のために日程を工夫して開催します。多文化の理解を深める英語のおはなし会を4月と11月に開催予定です。
- (2) 季節や社会情勢を反映させて、乳幼児向けには絵本、小学生向けには知識・科学や読みものの本の展示を毎月行い、貸出の促進を図ります。

【家庭での読書活動の推進】

〔取組〕

- (1) 乳幼児とその保護者に関わるボランティア向けに、わらべうたや絵本の読み聞かせについて、講師を招いて講座を開催します（9月頃・3回開催）
- (2) 区の乳幼児健診（1歳半）の会場で、わらべうたの実演や絵本の読み聞かせを行います。併せて、子どもの成長に合わせたブックリストの配布や図書館でのおはなし会を案内し、図書館の利用促進を図ります。

【学校教育への協力、学校図書館充実のための支援】

〔取組〕

- (1) 「学校向けプログラム」を作成し、区内学校校長会や情報教育研究会などで説明を行い、各小中学校へ配布します。
- (2) 児童生徒向けサービスでは、青葉区内の小中学校や近隣の支援学校からの図書館見学や職業体験の受け入れを行います。教職員や学校司書向けサービスでは、教職員研修への講師派遣や教職員向け貸出、レファレンスサービスを行います。窓口での相談にも応じ、希望があれば訪問しての支援も行います。学校司書やボランティア向けに、本の修理や読み聞かせなどの講座を春と秋の2回ずつ開催します。

【ティーンズ世代の読書活動の促進】

〔取組〕

- (1) 山内図書館のティーンズホームページに毎月ティーンズ世代におすすめする本を掲載し、中高生の読書活動の推進につなげます。また、SNS（ツイッター）を活用して情報を発信し、ティーンズホームページを訪れるよう促します。
- (2) 中学生の職業体験や高校生のインターンシップの際に、アンケートを実施し、読書傾向を把握します。また、中高生が同世代におすすめする本のポップを作成してもら

い、ティーンズ展示コーナーで紹介します。

【地域での読書活動への支援】

〔取組〕

- (1) 読み聞かせボランティアに、定例おはなし会等での活躍の場を提供します。
- (2) 昨年度開始した「やまちゃんおはなしのひろば（乳幼児健診でのおはなし会）」を引き続き開催します。
- (3) 多くのボランティアの協力のもとに例年行っている「夏のおはなし祭り」は、今年度は密を避けるために、日にちや人数を配慮して開催する予定です。「大人のためのおはなし会」を引き続き年3回開催します。
- (4) 修理ボランティア（2団体）の活動を支援します。昨年開催を見送った活動歴10周年の修理ボランティアグループの周年事業に協力します。また、同様に開催できなかった「本の病院」（一般家庭の本を修理する）も、開催方法を工夫して行います。

3 蔵書とレファレンスの充実

【地域の情報拠点としての蔵書の充実】

〔取組〕

- (1) 栽培農家数、田の経営耕地面積が横浜市で最大である青葉区の特性を踏まえ、第一次産業の支援に直結する農業、樹木、農作物に関する資料を30冊収集します。
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策の講演時に作成したブックリストを元に感染症関連の資料を40冊収集します。感染症は利用者の関心の高い事由であるため、所蔵の強化を図り、区民の課題解決に役立てます。

【資料の管理・保存】

〔取組〕

- (1) 青葉区、横浜市内の郷土資料の収集に努めます。映像や写真資料のデジタル化を進め、ホームページにアップロードしていきます。
- (2) 修理ボランティアと協力し図書の修理を進め、気持ちよく読書を楽しめる環境を提供します。

【レファレンスの充実】

〔取組〕

- (1) レファレンス専用デスク「やまうちよろず相談処」を継続設置し、司書が常駐することで利用者からの相談に迅速に応じます。また、多様な商用データベースを導入し、新聞記事検索から法律情報まで、市民の調べものを支援します。
- (2) 市民の学習支援のため、大人向けに新聞データベースの調べ方講座を3月に、子ども向けには科学講座を夏休みに開催します。

【資料の活用と情報発信】

〔取組〕

- (1) デジタルサイネージを導入して、情報発信をします。新型コロナウイルス感染症の状況に伴う最新のサービス案内や、講座・ワークショップの広報に加えて、ホームページで公開している地域情報もデジタルサイネージで公開していきます。
- (2) 毎月、青葉区の各広報紙（広報よこはま、タウンニュース）に情報提供して、広報活動を行います。隔月で出演していた青葉区広報ラジオについては、7月から情報提供のみを行う形に変更になるため、引き続き情報発信を行います。地元の NPO 法人『森ノオト』に親子向けイベントの情報を随時提供し、子育て世代の方へのアプローチも積極的に行います。
- (3) ホームページや SNS の速やかな情報更新に努め、地域の情報や図書館でのイベント情報を発信します。ホームページ、ブログ、ツイッターはそれぞれの担当チームを設け、正確な情報発信を行います。

4 山内図書館の独自目標

〔取組〕

- (1) 新型コロナウイルス感染症の予防対策を強化します。具体的には、手洗いの自動水栓化、便座クリーナーの設置、消毒液スタンドの設置、アクリル板の増設等を行う予定です。
- (2) 27 のキーワードを使って読書のコツや楽しみを共有する読書支援ツール「Life with Reading」を活用して読書活動を推進します。昨年度カードを配備した区内の市民利用施設でワークショップを開催します。ビブリオバトルと「Life with Reading」の区内小中学校におけるワークショップ開催の支援を行っていきます。